

シンガポールの食事情と物価について ～シンガポールでの暮らしから～

一般財団法人自治体国際化協会シンガポール事務所 所長補佐 木村華奈子
(富山県庁より派遣)

1 はじめに

東南アジアに位置するシンガポールは、約 730 平方キロメートル（東京 23 区と同程度）の小さな島の都市国家である。民族構成としては、中華系・マレー系・インド系の 3 つの民族が中心となっており、公用語は英語・中国語・マレー語・タミル語の 4 つもある。また、在住外国人が人口の約 26% を占めているという国際色豊かな都市だ。多種多様な民族が暮らすこの国では、さまざまな言語、文化、宗教が共存しており、まさに「多文化共生」の国であると感じている。

本稿では、現在シンガポール在住の筆者が感じたことを交えながら、シンガポールの食文化や食料事情、物価について紹介したい。

2 シンガポールに根付く外食文化

シンガポールで暮らし始めてまず驚いたことは、飲食店の数と料理の種類の多さだ。レストランはさることながら、ホーカーと呼ばれるフードセンターにも多種多様な屋台が集まっている。ホーカーでは比較的安くさまざまな料理が楽しめるため、ローカルにも観光客にも人気で、常に多くの人で賑わっている。



観光地としても有名なラオバサのホーカー（筆者撮影）

<参考資料>

- ①Nurul Ain Razali, 「Securing Singapore? Scale of city state' s food security 2030 challenge underlined by new data」, Food Navigator ASIA, 2022年5月4日、閲覧日2023年2月23日、URL : <https://www.foodnavigator-asia.com/Article/2022/05/04/singapore-s-challenging-2030-food-security-goals-underlined-by-new-production-data>
- ②吾郷伊都子、エスター頼敏寧、「6月から鶏肉の輸出を停止、供給と価格の安定目指す（マレーシア）」、JETRO、ビジネス短信、2022年5月27日、閲覧日2023年2月23日、URL : <https://www.jetro.go.jp/biznews/2022/05/b3152f5555d6424.html>
- ③本田 智津絵、「目指すは30%の食料自給率達成（シンガポール）新型コロナ禍で加速、農業テックへの投資」、JETRO、地域・分析レポート、2020年9月17日、閲覧日2023年2月23日、URL : <https://www.jetro.go.jp/biz/areareports/2020/7b300ec8fb5bf601.html>

このように、屋台からレストランまで数多くの飲食店がある要因の一つは、シンガポールにおける外食文化にあるかもしれない。シンガポールでは、早朝から開店しているところが多く、また、基本的にどのお店でもテイクアウトすることができる。さらに配達サービスも多いため、1日3食すべてを外食や中食で済ませられる。毎日毎食似たような食事だと飽きてしまうと思うが、この飲食店の数と種類の多さから考えると、お店を巡るだけでも楽しいだろう。

また、あるホーカーには、建国の父であるリー・クアンユー初代首相が通ったチキンライス店があるらしく（気になった方はぜひシンガポールを訪ねた際に行ってみてほしい）、ホーカーは現地に根付く食文化の一部として、誰からも親しみのある場所となっているのではと感じている。

3 輸入大国シンガポール

多様な料理を楽しむことができるシンガポールであるが、材料として使用される食品を含めて、シンガポール国内で供給されている食品の約 90% が輸入されたものである①。シンガポールは国土面積自体が小さいうえに、そのうち農業用地として利用されている国土は 1% ほど①であるため、輸入に頼らざるをえない状況であるといえるだろう。

近年のコロナ禍、ロシア・ウクライナ危機等に伴う食料供給網の遮断は、食料の大半を海外に依存しているこの国に特に大きな影響を与えたと考えられる。なかでも 2022 年 6 月から実施されたマレーシアによる食用鶏肉の輸出停止②は記憶に新しい。鶏肉は、シンガポールで大変人気があ

り、シンガポール料理であるチキンライスが代表的な例である。マレーシアの鶏肉はシンガポールの輸入鶏肉のうち34%を占めており（図1

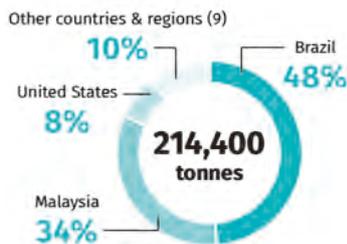


図1 鶏肉の輸入国の割合
(出典④：Singapore Food Statistics 2021)

参照)、この輸出停止は、特に新鮮な鶏肉を仕入れている小売店や市場、飲食店等にとって大きな打撃となったようだ。

シンガポール政府は、2019年以降、食料自給率を2030年までに30%まで引き上げるとする「30 by 30」を目標としており、コロナ禍以降はその目標への対策によりいっそう力を入れ始めたようだ(③)。今後の具体的な動きにも注目していきたい。

4 シンガポールの物価について

ここまでシンガポールでの食に関して述べてきたが、もう一つ驚いたことを挙げるとすれば、シンガポールの物価である。ここでは公共交通機関の安さと食費全体の高さについて取り上げたい。

シンガポールにはMRT（地下鉄）とバスの路線が張り巡らされており、公共交通機関のみでもあらゆる場所に行くことができる。料金は、基本的にMRTもバスも0.99～2.26シンガポールドル（約99円～226円、図2参照）で乗車が可能だ。

距離 (km)	金額 (SGD、大人片道)
3.2 まで	0.99
3.3 - 4.2	1.09
4.3 - 5.2	1.19
(省略)	(省略)
40.2 以上	2.26

図2 料金表 (SBS Transit (⑤) のHP を参考に作成)

富山県でいえば、富山駅から呉羽駅までが4.8kmの営業距離で、大人片道210円(⑥)であるため、

比較すると、安いことが改めて分かるだろう。

その一方で、食費をはじめとする生活費は基本的に高い。具体的な例として食費を挙げるが、ホーカーでの食事が比較的安いと前述したように安く買えるものはもちろんある。しかし、レストランに入って食事をするととなると、日本でかかる値段の約1.5～2倍が通常で、それ以上になることもある。特にお酒は高く、一番安いお酒であるビールでもお店で飲めば10シンガポールドル（約1,000円）程度であることが多い。そのため、お酒を伴う食事では、80～100シンガポールドル（約8,000～1万円）で済めば安いほうだ。この基本的な食費の高さは、先に述べた輸入コストがかかっていることも要因の一つであると考えられる。つい日本との価格差を考えてしまうが、シンガポールにはシンガポール料理だけでなく、なかなか日本では味わえない世界各国の料理もあるので、懐と相談しつつ、楽しみたいところである。

5 おわりに

今回は、筆者がシンガポールで暮らす中で特に強い印象を受けた食と物価について述べた。シンガポールに来てから約1年が経とうとしているが、シンガポールと日本の相違点から新たに発見できることが至る所にあり、大変興味深い国であると感じている。

最後に、シンガポールでは、2023年2月13日から公共交通機関でのマスク着用も任意となり、ほぼコロナ禍以前に戻りつつある。また、人の往来も、筆者が来星した昨年4月と比較すると圧倒的に増えており、大変活気にあふれている。ぜひ読者の皆さまにも実際にこのシンガポールを訪れ、活気に触れていただきたい。

2023年2月24日現在

※為替レートは1 SGDあたり100円として計算している。

<参考資料>

④Singapore Food Agency、「Singapore Food Statistics 2021」、2022年4月発行、

URL : <https://www.sfa.gov.sg/docs/default-source/publication/sg-food-statistics/singapore-food-statistics-2021.pdf>

⑤SBS Transit、「Fares And Concessions」、閲覧日2023年2月23日、URL : <https://www.sbstransit.com.sg/fares-and-concessions>

⑥あいの風とやま鉄道「運賃表、富山駅」、閲覧日2023年2月23日、URL : <https://ainokaze.co.jp/faretable/toyama>